目。のりの認国際とはのか

な協力は呼びかけず

光一㊽たた念も補のゆさて選正式

コメ「選いて井さであますＡＸがら

比2%に増額させる方針を説明し、「私自身、日米同

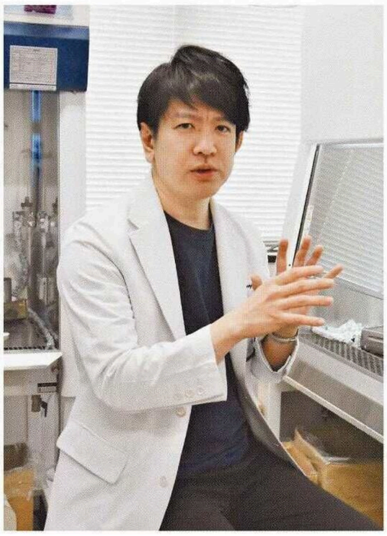
であり続ける」と訴える。軍事力を増強させる中国

クライナと共にある」と支援継続を表明する。

ひと 2024

大学院生対象の育志賞を受けた北大病院医師

千丈（せんじょう）　創（はじめ）さん



「白血病のない世界」を目指し、地道な研究を続けてきた。その成果が認められ、全国の優秀な大学院生に贈られる「育志賞」を道内から唯一受賞。「研究を頑張ってきて良かった」と顔をほころばせる。

骨髄などの移植治療後に起こる再発や免疫反応による合併症の防止に関する研究に取り組み、免疫抑制薬をうまく使うことで症状を抑えられることが分かってきた。「移植は白血病患者がさまざまな治療を経てたどり着く『最後のとりで』。完全に治すには再発や合併症をなくすしかない」と研究の狙いを話す。

札幌市出身。中学生の時に祖母が白血病を患い、余命3カ月と宣告された。その後の治療で症状が改善した様子を目の当たりにし、血液内科に関心をもつようになった。札幌南高から北大医学部に進み、一時はスポーツ医療の道も考えたが、初志貫徹で白血病治療に全力を尽くす決意をした。

大学を卒業し、医師4年目に骨髄移植を数多く手がける札幌の病院に勤務。再発や合併症が重症化し急死した患者の姿が目に焼き付いている。「人工呼吸器や管につながれ、苦しみながら亡くなる患者さんをたくさん見てきた。どうにかしないといけないと思った」といい、北大大学院で研究の道に進んだ。

昨年9月に大学院博士課程を修了。北大病院で勤務し、再び患者と向き合う日々だ。「白血病を『かかっても必ず治る病気』にしたい。生涯をかけて取り組む価値のある仕事です」と意気込む。

バスケットボールと野球が好きな34歳。（大城道雄）

Doshin Books 北海道新聞社の本　𝕏@doshinbooks
北海　生前　自分　【執筆

©北海道新聞社